

# 言葉の力

通称「ことちか」

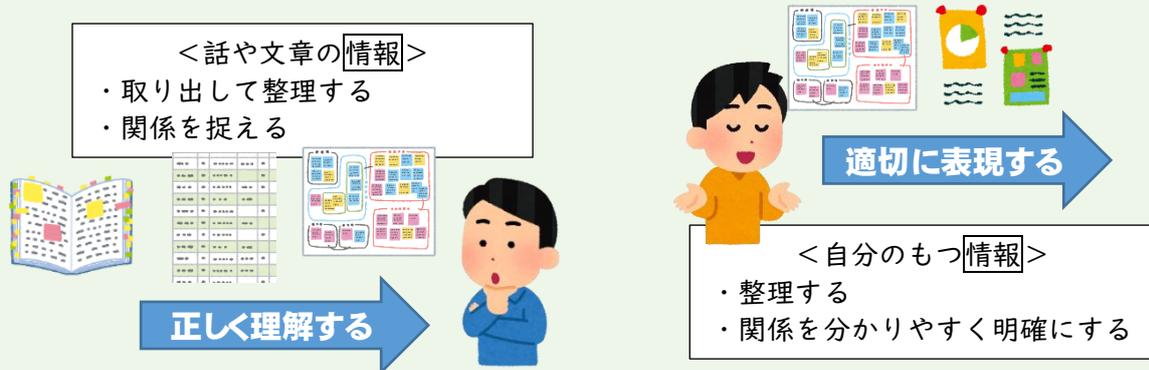
令和7年3月11日発行  
第4号  
福島県教育庁義務教育課

## 「情報の扱い方に関する事項」とは？

「情報の扱い方に関する事項」は、平成29年告示の現行学習指導要領〔知識及び技能〕において新設された指導事項です。

「情報の扱い方に関する事項」の新設の背景には、情報化が急速に進展する社会において「**様々な媒体の中から必要な情報を取り出す**」「**情報同士の関係を分かりやすく整理する**」「**発信したい情報を様々な手段で表現する**」といった力の育成が強く求められるようになった経緯がありましたが、学習指導要領改訂の当時よりも、生成AI技術の普及に代表されるように、情報化は一層加速度的に進展しており、**情報の扱い方に関する力はますます重要度を増しています**。

また、「情報の扱い方に関する事項」の〔知識及び技能〕は、下図のように、話や文章の正しい理解、話や文章による適切な表現にもつながるため、国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つでもあります。



## その4 「情報の扱い方に関する事項」の指導を充実させたい！

「情報の扱い方に関する事項」は、「情報と情報との関係」「情報の整理」の二つの系統に分けられ（裏面参照）、これらを〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項との関連を図りながら指導していくことが大切です。今回は、効果的な指導につながる二つのポイントを紹介します。

### 【ポイント① 情報を表や思考ツールに整理する過程を大切にする】

情報を整理する手段としてよく活用されるのは、表にまとめることです。国語科の学習では、文章から段落ごとに必要な情報を取り出したり、作文やスピーチの構成を整理したりするときなどに使われることがあります。表を使うことは、情報の全体を捉えたり、情報を比較・分類したり、情報同士の関係性を明らかにしたりすることができ、新たな気付きや学習の深まりにつながります。子どもたちには、自らの力で情報を表に整理できるようにさせたいものです。

しかし、授業では、教師から与えられたワークシートの表に、作業のように答えを埋めていく場面を目にすることがあります。もちろん、それをねらいとして行われる場合もありますし、発達段階に合わせた活動の場合もありますが、情報を表に整理する学習活動をする場合、状況や発達段階に応じて、始めから教師が表を与えるのではなく、**子どもたちから「表に整理したら分かりやすくなりそう」「表にまとめられそう」という気付きを引き出し、子どもたち自らが表にまとめる過程を丁寧に取り上げることが大切です**。もし、ワークシートの表を用意していたとしても、表の構造や項目などを子どもたちと一緒に考える場面を取り入れてみてください。

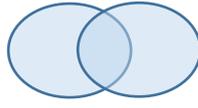


段落ごとに共通する部分があるから、項目を立てて表にまとめられそう！

もし、ワークシートの表を用意していたとしても、表の構造や項目などを子どもたちと一緒に考える場面を取り入れてみてください。



二つの事例には、共通点もあるから、ベン図を使ってまとめてみよう。



また、これは情報を思考ツールなどで整理する場合にも言えます。例えば、始めから教師がベン図を提示するのではなく「相違点と共通点を整理するためにはベン図がいい」と子どもが自ら考え、使う

ことができるようにすることが大切です。子どもが自ら選択できるようになるためには、教師が表や思考ツールなどのよさや使い方に気付かせる過程も必要になりますが、「子どもたち自ら選択して使えるものにする」ということを念頭に指導することが大切です。

### 【ポイント② 作文やスピーチ原稿をつくる際に情報を短い文で見える化させる】

作文やスピーチ原稿をつくる際、伝えたいことをノートに箇条書きの短い文にして書き出したり、付箋に書いて並べたりする活動を目にします。このような活動は、これまでよく行われてきたことと思いますが、「情報の扱い方に関する事項」が新設されたことにより、改めて大切にしたい学習活動です。

理由は、**情報を箇条書きの短い文で書き出したり、付箋に書いたりすること自体が、情報の中心を捉えたり、具体を抽象に置き換えたりすることであるとともに、情報を見える化し、伝えたいことを子どもたち自身が客観的・構造的に捉えることにつながる**からです。

さらに、条件に合わせて、見える化した情報に優先順位をつけたり、情報を取捨選択したりするといった過程が加わることにより、目的や意図に応じた効果的な活用になります。



相手の興味を考えて話す内容を整理しましょう。発表は5分間です。

相手が興味をもちそうな順に、二つの内容に絞って話そう。



紹介したポイントを参考に、[思考力、判断力、表現力等]の指導事項との関連を図りながら、「情報の扱い方に関する事項」の[知識及び技能]の指導に取り組みましょう。

## 【参考】情報の扱い方に関する事項（小・中学校学習指導要領）

[知識及び技能]

### (2) 情報の扱い方に関する事項

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年
	(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
情報と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年
	(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
情報と情報との関係	ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。	ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。
情報の整理	イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。	イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。

(『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』より)